

学校支援を積極的に進めよう

～地域・家庭・学校との連携～

刈谷市立衣浦小学校 P T A

1 校区及び地域の概要

本校は、刈谷市の南部に位置し、学区には由緒あるお寺や神社がたくさんある。特に本校のすぐ北側にある本刈谷神社は320年の歴史があり、境内付近に分布している貝塚は縄文時代のものである。また、本校の学区は、地域の活動が盛んで、地域・家庭・学校の三者が連携し、地域全体で健やかな子どもの育成に取り組む土壌が整っている地区である。

2 研究のねらい

近年の社会情勢のもと、P T A・学校・地域が一体となって、子どもたちの安全や健やかな成長を守ることがますます重要になってきている。そのため、私たちP T Aも学校・地域と連携を密にして、子どもたちの安全や健やかな成長を守っていくことで学校を支援していきたい。

3 研究の方法

- ①社会情勢を念頭に置きながら、学校支援を積極的に進めていくために、どんな行事や活動が必要かを地域・家庭・学校と計画する。
- ②総務委員会、文化委員会、保健厚生委員会、生活交通委員会を組織し、各委員会ごとに方針を決める。そして、その委員会が主体となって役員・幹事全員で行事や活動に取り組むことにより積極的に学校支援を進めていく活動にする。

4 研究の実践と考察

(1) 1年生親子安全教室《生活交通委員会：5月》

子どもたちの安全を守るために、交通安全の意識を高め、交通事故を未然に防ぐことをねらいとして行った。保護者の方にも参加していただき、親子で共に交通安全への意識を高める活動である。

交通指導員さんのご指導の下、体育館に道路、横断歩道を作り、信号機を設置し、校区内にある交差点を再現した。この日は親子下校も実施し、通学路の危険箇所を親子で確認しながら、交通安全教室で学んだことを実践して下校した。親子下校では、子どもの通学路を手をつないで帰ることで、危険箇所を確認したり、親子がふれ合ったりする場にもなった。



(2) 防災講習会《総務委員会：6月》

子どもたちの安全を守るために、南海トラフ大地震等、いざという時の応急手当や防災について親子で学ぶことを通して、防災・安全意識を高めることを目的に行った。

【5・6年合同の体験】

まず最初に、刈谷市赤十字奉仕団の方のお話を聞いた。防災グッズやアルファ米についての説明をクイズ形式で行っていただいた。分かりやすい内容で、子どもたちは防災について、興味をもつことができた。その後、学年別に分かれてそれぞれの体験活動に移った。

また、P T A役員とボランティア幹事でアルファ米からおにぎりを作って5・6年生全員に配った。

【5年生の体験】

①ホットタオルコーナー

子どもたちは、少ないお湯しか用意できない状況でもホットタオルを作ることができること、災害の時に熱いタオルでからだを拭くだけでも、気持ちがよくなり心身の緊張をほぐすことができることを体験した。

②風呂敷でリュックコーナー&応急手当コーナー

応急手当のコーナーでは、ハンカチが包帯やバンドエイド代わりにになったり、ストッキングが骨折した際の腕の固定に役立ったりすることを知り、みんな驚いた表情で体験していた。

【6年生の体験】

6年生は、10グループに分かれて蘇生人形とAEDトレーナーを使った心肺蘇生法を体験した。

【子どもたちの感想】

・もし、地震が起きて倒れている人がいたら今日学んだことを使いたいと思いました。(6年)

・身近な物でも使い方を工夫すれば人の役に立つ物ができ、便利だなと思いました。(5年)

【保護者の方の感想】

・子どもが祖父や祖母に「もしもの時には、お湯とタオルとレジ袋でホットタオルを作ってあげるね。とっても気持ちいいよ」と話をする姿を見て今日は優しい心も学んだとうれしくなりました。

・街を一緒に歩いていると、「あっ！AEDがこんなところにあるよ。心臓が止まっている人をこれで助けられるね」と話してくれます。こんな娘の姿を頼もしく感じました。

・買い物に行った時に子どもが「非常食がある」とか「これって非常食になるね。家に置いておこうよ」と話してくれます。我が家には「非常食用のクッキーと水」を置いておくようになりました。



(3) PTA文化教室《文化委員会：10月》

全国的にスマホ・ケータイにまつわるトラブルが多発している。そこで、子どもたちの健やかな成長を目指して、児童(4～6年生)と保護者を対象にNTTスマホ・ケータイ教室の方を講師にお迎えし、スマホ・ケータイの安全な使い方についての講演会を行った。親子で、スマホ・ケータイは、使い方を間違えるととても危険であることを学んだ。

(4) PTAバザー《保健厚生委員会：12月》

本校のバザーは、保護者、地域の方が参加しやすいように土曜日に開催している。学校は休みなので、大人の方だけでなく、たくさん子どもたちがお手伝いやお客さんとして参加している。地域の方々の多くの協力で毎年多くの集荷物が集まり、多くの収益金で学校生活に役立つ物を購入してもらい、学校支援につなげている。

5 成果と課題

地域・家庭・学校との連携に加えて、刈谷市赤十字奉仕団や業者等の諸機関との連携は、学校支援への成果をより深めることができた。今後、さらに連携の幅を広げていくことが、学校支援の充実につながっていくと考える。また、活動の様子を学校便り、HPでの発信を学校にお願いしたことにより、学校支援を今後もより積極的に進めていこうとするPTAの方々への意識を高めることができた。